

令和3年度 奈良市立朱雀こども園 研究実践概要

園長名 鈴木 優子
全園児数 225名

1. 研究主題 豊かな心を育み、主体的に活動出来る子どもを目指して
ーワクワク出来る遊びの環境を探るー

2. 研究年度 2年度

3. 研究主題設定理由

子ども達がこれからの変化の著しい社会の中で生きていくためには、豊かな感性と主体的に活動していく力が不可欠である。乳幼児期に安定した生活のもと人と触れ合いながら主体的に生活したり、遊んだりするためにどのような人的・物的環境を整えることが必要かを探っていく。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

・子どもが主体的に遊べるようにそれぞれの年齢にあった関わりや環境構成を行い、豊かな心を育む。

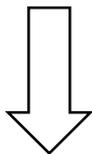
②研究の重点

・園内公開保育を行い、子どもの姿から保育を振り返り明日の保育に繋げる。
・定期的に会議を持ち、現状と課題を職員全体で共有し、取り組む。
・0歳児から5歳児への繋がりのある保育を目指し、人事交流を行う。

③活動の方法

外環境（乳児棟）【砂場の環境について】

砂場の環境について、ままごと遊びと砂遊びが分かれておらず、山をつくっているところに他児が皿をもって来るなど、遊びが混じってしまう姿があった。また、道具棚も絵の表示はあるもののどこに何があるかがわかりにくく、カゴも大きく深い物であった為、使いたい時に取り出しにくかったり、片付けの時に戸惑ったりする様子が見られた。



・ペットボトルの仕切りを使ってままごと遊びと砂遊びの場所を明確に分けた。
・道具を細かく分類する、写真表示に替える、ままごと道具には目印を付ける、小さいカゴを使用するなど、わかりやすく片付けやすくなるようにした。



場所を区切り、ままごとコーナーにキッチンや子どもの高さに合ったテーブルを用意したことで、どこで料理をつくるかがわかりやすくなり、遊びが混じることはなくなった。また、棚を整理したことで、必要な時に使いたい道具を取り出せるようになり、片付けもスムーズになった。さらに、鍋やトングなどの調理用具を充実させ、具材として自然物を準備すると、遊びが広がってそれぞれの年齢なりに見立て・つもり遊びを楽しむようになった。砂遊びコーナーでは大きな山をつくるなどダイナミックな遊びをする姿が見られた。

[反省・評価・考察]

外環境係で砂場の環境を見直し、整えたことで遊びが豊かに展開されるようになった。各年齢の遊びの様子を共有し、どのように改善すべきか意見を出し合う中で、乳児全体として遊びを考えることができた。また、コロナ禍で他の年齢との関わりが持ちにくい中、年上の子どもが料理をつくる姿を見て年下の子どもが真似ようとするなど自然に関わる姿が見られたこともよかった。今後も乳児全体で子どもの育ちや様子を出し合い、安全面に配慮しながら、「明日も遊びたい」と思えるような環境づくりをしていきたい。

内環境（乳児棟） 【魅力あるエントランスに】

エントランスの環境を中心に話し合い、季節の物を飾ることになった。子ども達の登降園入口は、園庭側にあり職員の靴箱の上に季節の飾りを貼りだしていたが、保護者や子どもからは死角になって見えにくかった。子どもの靴箱の上は季節を感じにくく、殺風景だった。

魅力的
にする
為に。

- ・パーテーションでエントランスを区切り壁面を手前に見えるように配置した。
- ・季節ごとにテーマを決めて人形を含めた小物を手作りして飾ったり絵本を置いたりする。
- 夏・・プールに入った人形・クジラのシャワー壁面・サンゴの貝殻。
- 秋・・虫取りする人形・虫かご・コスモスの壁面・マツボックリ
折り紙で作った虫・落ち葉。
- 冬・・サンタの服を着た人形・夜空・街の壁面・クリスマスプレゼント・ツリー。

小物や壁面が新しくなるとすぐに気づき、保育者や友達に話しかけたり、触れたりして思いを共有しようとする姿が見られた。画用紙で作ったコスモスの花を見つけ「かわいいな」と花を指さしたり「ピンク好き」と友達同士で話したり、手に触れて花びらの丸まっている感触に気づいたりしていた。また絵本で同じ花を見つけ秋の自然に興味をもつことができた。冬にはクリスマスの装飾になっていることに直ぐに気づき「プレゼントなに入ってる?」「ココロ音するで。」と、手に触れながらクリスマスのサンタクロースを楽しみにワクワクしながら友達と話をする声が聞こえてきた。



【反省・評価・考察】

エントランス装飾の位置を変えるにあたり、左の靴箱は少し低く、子どもの視線から見やすいことに気づいた。子どもが見えやすい事で手に取って触る姿があった。内環境係の中で状況を話し合いながら、今後は触って季節を感じるができるように、子どもの高さにあったテーブルを置くなど環境を整えるとともに、子どもたちが変化を楽しみ手で触れて感じることができる、ワクワクするような環境を準備していきたい。今後も乳児に安全な環境を第一に考えながら季節の飾りなどを継続し、明るく温かみのあるエントランスで、安心して送迎する親子のほっこりする時間、空間となるように考えていきたい。

2歳児【子どもがしたい遊びを十分に楽しめる環境づくりについて】

4月より部屋が広くなり、コーナーで遊びをしてもその横を走る子どもの姿があった。その他にも、机上遊びをしている子どもがつられたり、落ち着いて遊べない姿が見られたりした。そこで、園内公開保育で出た意見を元に学年で話し合いを行い、子どもの体をつくるため、室内に運動コーナーを設定することにした。

- ・新聞紙で作ったフープやジュースパックで作った箱積み木を、ジャンプやケンケンバー遊びができるように並べる。
- ・マットを滑り台のように山型にして高さをつけ、登ったり、転がり滑ったりできるようにする。

フープを使って電車ごっこをしたり、子ども達が自ら並べてケンケンバーを楽しんだりしていた。箱積み木も取り入れたことで、自由に置いて飛び石のように「ジャンプ!」と跳んだり、こっちだよー」と友達と一緒に関わって遊んだりする姿が見られた。マットでは、高さや幅を調節すると「ここ危ないね〜」とバランスを取りながら勢いをつけて滑ろうとしたり、友達と一緒にスピードや傾きを調節して滑ろうとする姿があった。



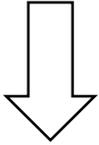
【反省・評価・考察】

室内に運動コーナーを作ったことで、体を動かして遊びたい子、ブロックやパズルでじっくり遊びたい子などが、それぞれ自ら好きな遊びを選ぶことができ、心が満たされて次の行動に移せるようになった。さらに、リズム室でサーキット遊びをしたり、ピアノに合わせて身近な生き物になったりして遊ぶ機会も増やしている。幼児で取り組んでいる『力をつけよう』(リトミック)を見せてもらい、意欲的に取り組んでいきたい。子ども達が主体的に選んで遊べるよう、ワクワク出来るような遊び、楽しかったー!と思える遊びを引き続き子どもの様子から考え、探っていきたい。今後も、保育者や友達と関わって遊ぶ姿を温かく見守っていききたいと思う。

3歳児【ダイナミックに遊べる環境を求めて】

水遊びの一つに色水遊びのコーナーを用意した。カップからカップに水を入れて移しかえたり、「これ入れたら色が変わった。」と色を混ぜたりすることを楽しんでいた。何度も何度も試して、偶然できた色に喜ぶ姿があった。またできた色水を使って「ブドウジュースどうぞ。」とジュース屋さんを楽しむ姿も見られた。一方で、色水を入れていたポンプの数が少なかった為、「早く代わってよ。」と困っていたり、「水がなくなったよ。」と保育者に知らせに来たり、途中で遊びから離れたりする姿も見られた。





公開保育で、3歳児は体全体で感触を味わったり、偶然生まれた色や音に興味を持ち遊んだりする姿があるので、その経験をより多くでき、ダイナミックに遊べる環境があればいいのではないかという意見が出た。そのため、子ども達が「遊びをいきいきと存分に楽しむ」ということを「ダイナミック」と捉え、環境を考えていくことにした。

秋の自然物で存分に遊べる環境として、たくさんのどんぐりをコンテナボックスに敷き詰めて用意した。すると、子ども達が「どんぐりザンザンみたい。」とワクワクした表情を浮かべながら中に入ってみたり、「ベッドみたい。」「裸足だと気持ちがいいよ。」「足がうまって見えなくなったね。」と気付いたことを知らせたりする姿が見られた。また、大きな板をたてかけると、たくさんのどんぐりを転がしたり、「こんないっぱい集められたよ。」とどんぐりを豪快に使い音や勢いを楽しんだりしていた。

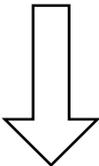


[反省・評価・考察]

公開保育を通して、実際の遊びの姿や動画を他の保育者と共有し、3歳ならではのダイナミックさが必要であることが分かった。何度も話し合いを重ね、子ども達にとって分かりやすく、十分な広さと量がある環境を用意することでダイナミックに遊ぶ事ができるのではないかと考えた。すると、体全体を使って存分に遊びを楽しむ姿が見られたり、気づいたことを保育者に知らせたり、遊びを自分達で考えようとしたりする姿が見られた。また、遊び終えた後には、「明日もしようね。」と言いながら満足した様子で片付けを最後まで取り組んだりする姿が見られるようになった。このことから、ダイナミックに遊べる環境は子ども達の心の安定や主体性を促すと感じた。引き続き、子ども達の「やってみよう」という思いを引き出し、達成感や満足感をもって遊べるような環境を探っていききたい。

4歳児 【A児が主体的に遊ぶための環境とは】

進級し広い園庭になったこともあり、春は園庭に出ると何をすることもなく走り回ったり、遊びを次々に変えたりする姿があった。保育者が誘いかけると一緒に転がしドッチボールなどを楽しみ、いきいきと活動する姿もあった。しかし、自分なりの遊び方を通そうとするので友達が遊びをやめてしまったり、トラブルになったりすることも多く、保育者が仲立ちに入っても中々自分の気持ちが言葉にできず、困ったことがあると黙り込んでいた。遊びに満足することができず、片付けの時間になっても遊びを続けたり、園庭を歩き回ったりしていた。苦手な制作や描画の活動に参加しようとしないうちも多かった。



- ・本児の気持ちを言葉にして伝え方を根気よく知らせ、A児が友達と遊ぶ楽しさが十分に感じられるようにする。
- ・A児が興味をもった遊びの環境を整える。
- ・繰り返し試して遊ぶことができるよう十分な量や様々な素材を用意する。
- ・具体的でわかりやすい声かけをする。
- ・本児の良い所を認め、自信に繋げていく。

A児が水を流すことに興味をもったことから、水を存分に流せる場として波板を立て掛けたり、水と一緒に流して楽しめる素材を用意したりした。その遊びをきっかけに友達とのやりとりが増えたが、思いを通そうとしてトラブルになることが出てきた。保育者がA児の言葉を補いながら、自分で気持ちを伝えられるようにしたり、友達の気持ちもA児に具体的に知らせたりすることで相手の思いを受け入れ、継続して遊びに取り組めるようになった。友達の遊び方に触れ、一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができたことで、「一緒に遊ぼう」「(遊びに)入れて」と自分から友達に声をかける姿も見られるようになってきた。また「楽しかった!明日もまたしよう」などと友達と話をするようになり、次の日に期待を持つようになってきている。遊びに満足できたことで片付けを進んでしたり、制作や描画などの活動にも参加したりすることができるようになり、意欲的に園生活を過ごす姿が多く見られるようになってきている。



[反省・評価・考察]

A児が興味をもっていることを存分にできたり、試したりできる遊びの環境を用意した。初めは自分なりの遊び方をしていたが、保育者が間に入り、思いを伝え合えられる援助を重ねてきたことで友達と遊ぶ楽しさが感じられるようになった。折り合いをつけながらも友達と遊ぶ楽しかった経験が継続して遊んだり、自分から友達を誘って遊んだりして主体的に遊ぶ姿に繋がった。これからも子ども達の興味に沿った環境を整えることで友達と遊ぶ楽しさや喜びが十分に感じ、主体的に遊べるようにしていきたい。

5 歳児【A児が主体的に活動に参加していく為の環境について】

進級当初は口数が少なく感情表出も薄いA児であったが、次第に担任やクラスの雰囲気慣れ、友達や保育者に話すことも増え、当番活動などにも楽しんで取り組む姿があった。しかし、二学期に入ると途端に人前に立つ事を拒否するようになった。運動参観に向けての演技や体操については楽しんでのびのびと取り組んでいたが、園庭に出始めると途端に参加出来なくなった。

担任だけでなく学年全体の保育者が関わり、保護者とも密に連絡を取り、本児の恥ずかしがりな性格を受け入れながら、誘いかける、励ます、演技の動画を見る、観客を呼ぶなど、A児が安心・納得出来るような方法を様々に試したが、全体の演技の中に入る事は難しかった。最終的に保護者の視線を感じにくい園児席横で、保育者と共に出来る範囲の演技を行う、という方法で参加することとなった。

二学期後半の生活発表会でのお話遊びに向け、クラス内でA児の参加方法について何度も話し合い、園内学習会でも事例検討を行ってアドバイスを貰った。

『リズム室でA児なりに、主体的にお話遊びに参加する』という目標を家庭とも共有し、生活発表会に向けて取り組みを進めた。

＜主体的な参加を引き出す為の環境＞

*安心して座れる(視線を感じにくい)席の配置

*ステージに出ることだけに拘らない参加方法の検討

*A児が興味をもち、楽しめる題材設定

保育室での表現遊びには楽しんで参加していたが、リズム室に入ると昨年の経験から『発表会』を意識してしまうからか、途端に拒否感を示してきた。参加を無理強いせず、友達が遊びを進めていく様子を座って見るようにした。アイデアを出し合いながら進めていく中で、次第にA児が寄り添っている保育者に対し、「ここ、〇〇したらいいんじゃない」とお話遊びについてつぶやき始めるようになる。保育者が「言ったらいいよ」と背中を押すと、A児が手を挙げて「楽器を鳴らしたら」「こういう小道具を作ったら良い」等とアイデアをどんどん発信し始め、クラス全体が「いいな！」と共感しながら取り入れていくようになった。

もともと絵本の好きなA児はお話の流れをよく理解しており、登場人物の動き方や効果音、小道具などについてイメージを広げ、その後も次々と提案していった。太鼓やパチなど取り入れられそうな楽器などを目につくところに置いておくこと、演技に合わせて音を出し始めた。また、大道具の出し入れも自分からするようになっていった。

その後も意欲的にお話遊びに取り組み、ステージに出て踊ったり話したりはしないものの、劇の展開を理解して友達とタイミングを合わせながら自分の役をこなしていく姿を見せた。

〔反省・評価・考察〕

運動参観に向けての取り組みで全体に入れなかったA児であったが、そこからクラスの枠を越えて話し合い、関わりや環境構成を試行錯誤した。保育者との信頼関係の中で、今までの楽器や制作の経験を活かして本児がアイデアを発信出来たことが、その後の意欲的な姿勢に繋がった。信頼できるヒト・使い慣れたモノ・経験してきたコトが積み重なり、生活発表会への主体的に参加することが出来た。子ども達に丁寧に関わり、今後の可能性を広げるための豊かな経験を保証していくことが、主体性を育む一つの方法であると考えられる。

5. 研究の成果

- ・乳児では、内環境係と外環境係に分かれ、園舎や園庭の環境を見直して整えたことで、明るく温かみのある雰囲気を作ることができ、遊びが豊かに展開されるようになった。
- ・幼児では、行事や保育内容が中心となりがちな会議を、子どもの姿や発達を伝え合い、そのために必要な保育内容を考えていくことを意識した。そのことで、一人一人の育ちを園全体で捉え、成長を喜びながら関われる体制づくりに繋がった。
- ・園内公開保育や学習会で学年の悩みや課題を出し合い、職員全員が考え、話し合う機会を設けた。園内公開保育では遊びの様子を写真や動画を使って振り返ることでその場になかった職員も様子を共有し、活発な議論をおこなうことができた。学習会ではグループ討議を行い、各年齢の職員が入ることで、様々な視点からの意見が出て有意義なものとなった。会議のまとめを配布・掲示することで、情報を共有することができた。さらに会議で出た意見を参考に再度クラスや学年で話し合い、人的・物的環境を整えたことで子どもが主体的・意欲的に活動するようになった。
- ・主体的に活動する子どもの育成には豊かな経験を積み重ねていくことのできる質の高い環境の提供が重要であると感じた。

6. 今後の課題

- ・園児や職員が多い中で全ての子どもに対して同じ意識を持ち、保育を進めていくためには更なる連携が必要である。今後の研修や会議で、継続して話し合う課題や場の持ち方について検討するとともに、内容を職員全員が共有できるようにする方法を探っていきたい。
- ・園内公開保育や動画・写真などを用いてさまざまな視点から保育を振り返り、深めていくことが重要であり、ポイントを決めて意見を出し、話し合えるように今後も取り組んでいきたい。